

令和8年度までに全校導入！

コミュニティ・スクールの推進

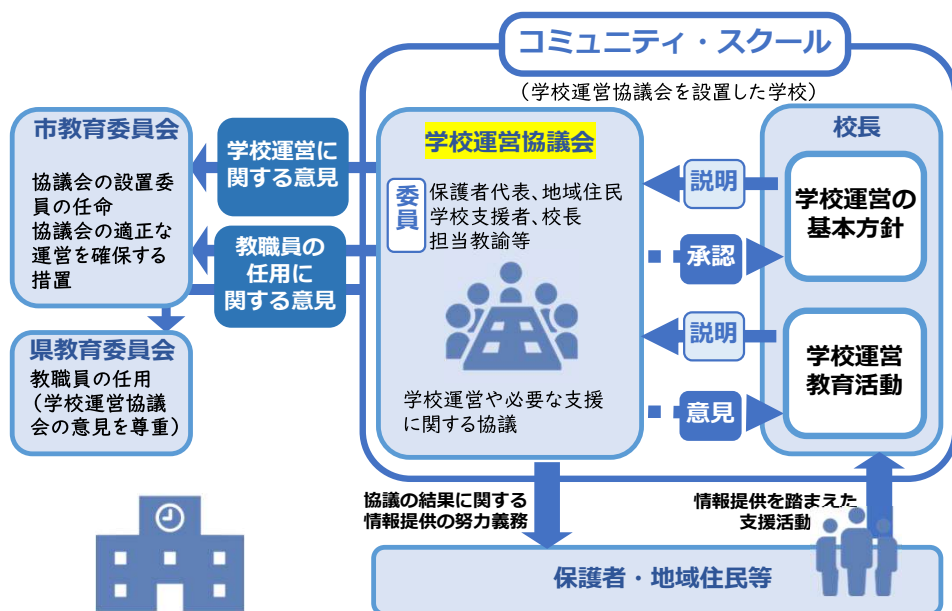
「開かれた学校」から更に一歩踏み出し地域と一体となって子ども達を育て「地域とともにある学校」へ江田島市ではコミュニティ・スクールを順次導入しています

コミュニティ・スクール（CS）って何？

子どもたちの未来の創造に向け、学校と地域がパートナーとなって
取組を進めていくための新たな仕組みです

コミュニティ・スクールは、学校運営協議会を設置した学校のことを言います。

学校運営協議会とは、保護者代表、地域住民、学校支援者、校長、担当教諭などの委員で構成された合議制の組織です。法律に基づいて教育委員会から任命された委員が、一定の権限と責任をもって、学校の運営とそのために必要な支援について協議し、協働します。



これまでとどう変わる？

「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ進化します

保護者や地域の方々が一定の権限をもって学校運営に参画し、「目標やビジョン」を共有して、社会総がかりで子どもたちの育成や学校運営の改善を進めていくことをめざしていきます。

学校・家庭・地域が連携を深めるために大切な3つの視点

熟議

関係者が当事者意識をもって「熟議（熟慮と議論）」を重ねることが大切になります。

協働

学校運営に地域の人々が共有した目標に向かって「協働」することが大切になります。

マネジメント

校長が強いリーダーシップを発揮できるよう「マネジメント」を強化することが求められます。

どんなメリットがある？

子どもを中心に学校づくり・地域づくりを考えることで、次世代の地域づくりが推進されます

少子高齢化により社会は激しく変化しています。そのような中、学校や子どもたち、そして地域それぞれに課題を抱えています。コミュニティ・スクールの導入はこれらの課題解決の一助となり、次世代の地域づくりの推進にもつながります。

それぞれの立場にメリットがあります

地域

- 学校を核とした新たな地域ネットワークが形成され、地域の課題解決につながります。
- 地域に住む人たちが、学校という場において、それぞれの経験を生かすことで生きがいや自己有用感が生まれます。
- 地域でのつながりが増え、防犯・防災体制等の構築にもつながります。

学校

- 地域の人々の理解と協力を得た学校運営や「社会に開かれた教育課程」の実現が可能となります。
- 地域人材を活用した教育活動が充実します。
- 地域の協力により子どもと向き合う時間が確保できます。

子ども

- 地域の方の協力を得て、学びや体験活動が充実します。
- 地域の人とつながることで他人を思いやる心が育ちます。
- 地域の担い手としての自覚が高まります。
- 地域の力を借りた防犯・防災等の対策によって、より安心・安全な生活ができます。

保護者

- 地域の中で子どもたちが育てられているという安心感があります。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。
- 地域に対する理解が深まり、家庭教育との相乗効果が生まれます。

どんな年間の動きになる？

定期的に学校運営協議会を開催し、情報及び課題や目標を共有しながら熟議を重ね、協働して様々な取組を実行していきます。

例 5月頃 第1回学校運営協議会

- ・学校運営に関する基本方針の承認
- ・地域と学校の協働活動の協議
- 例) ◆郷土学習について ◆交通安全について ◆環境整備について
- ・学校や教育委員会への意見の申出



10月頃 第2回学校運営協議会

- ・前期の様子報告
- ・後期に向けた学校運営に関する協議
- ・学校や教育委員会への意見の申出
- (随時 地域と学校で協働活動) (学校評価の実施)

2月頃 第3回学校運営協議会

- ・今年度の振り返りおよび学校評価の報告
- ・次年度に向けて

